

2015アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト 報告書

日本学校名[Sherry 英語教室] 担当教諭名[塩飽 隆子] (小学5-6年 9名)

交流相手国[マラウイ]

海外学校名[Mitundu Primary School] 担当教諭名[富高 由紀子 (JICA)]

■実施教科・時間数について教えてください。

	教 科	単 元 名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数	英語	習った英語を使って伝えよう！	15
	課外活動	日本のことを絵で表そう！	8

■作品について教えてください。

題 (テーマ)	日本とマラウイの自然と文化
絵に込めたメッセージ	遠く離れたアフリカのマラウイと日本の「自然と文化」を祭りの踊りと動物・生き物を描くことで対比した。違う「自然」、違う「文化」だけれど、似た祭りの踊りがあることを知り、それを描くことでこの地球には多様な自然があり、多様な暮らしがあるけれど、そこで生きる人々には共通する部分があることを伝えたい。



■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
・テレビでしか見たことがないアフリカの国と繋がることで、子どもたちが世界をそれまでと違って自分にとって近い存在として関心を持つようになった。 ・テレビ会議を通して英語を話すことに自信を持つことができ、学習意欲が高まった。	相手のフォーラムの返事が遅かったので、直接繋がって話ができるテレビ会議でモチベーションを維持した。

■アートマイルに取り組む前と比べて相手国や世界に対しての意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
・マラウイは聞いたこともないアフリカの遠い国だったが、マラウイの子どもたちの学校での様子や家での暮らしを知って自分の頭で想像できる世界になった。 ・壁画制作を通して一緒に一つのものを作ることでお互いの気持ちが繋がることを実感した。 ・英語を勉強するのは世界の人と話をするためだということが分かった。	・マラウイというそれまで聞いたこともない国との協働学習を通して、あらためて知らないことを知るワクワク感を感じ、子どもたちと同じ目線に立って学習活動を進めることができた。 ・壁画の共同制作が相手との一体感を予想以上に強めたことに驚いた。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活 動 内 容	児童生徒の反応	実施教科等
自己紹介	9月	フォーラムに一人一人の写真を載せて自己紹介をした。 自己紹介カードを相手に送り、相手からも自己紹介カードが届いた。	自己紹介カードで自分をアピールしようとそれぞれに工夫してカードを作成していた。相手の自己紹介カードがフォーラムにアップされると日本と違うことが多くて驚いていた。	英語
テーマ学習	10月	テーマのについて自然と文化について身近なことをフォーラムで伝えた。テレビ会議で自己紹介と文化紹介をした。	身の周りの文化や身近な生き物・動物を伝えたので英語で楽しく伝えることができた。マラウイにも日本に似た踊りがあることを知り、世界を近く感じた。	英語
構図決定	11月	構図の大まかな相談は教師が行った。描く内容を子どもたちが決め、テレビ会議で紹介した文化や自然や動物を描くことになった。	身近な自然や動物とお祭りの踊りを描くことになり、子どもたちはどんな動物を描こうかととても楽しみにしていた。	英語
壁画制作	12月	どこを描くかみんなで相談して分担を決め、各々が全体のバランスを考えながら分担したところに責任を持って描いた。	各自が真剣に自分の分担した絵を描いた。一人一人の集中力とお互いがアドバイスし合って助け合う様子に驚いた。相手がどう思うかを想像しながら描いていた。	課外活動
鑑賞・振り返り	3月	マラウイから壁画が戻ってきて鑑賞した。ワークシートで壁画の感想とこれまでの活動を振り返った。	相手は生まれて初めて絵の具と絵筆を使ったにもかかわらず、一生懸命マラウイのことを伝えようとしていることが感じられて感動していた。	英語

■学習目標(つきたい力)と成果(ついた力)について教えてください。

「目標」先生が指導に当たって重視したことをABCで記入（A:特に重視した B:重視した C:特に重視しなかった）

「成果」先生の手応え（5:とても身についた 4:身についた 3:どちらともいえない 2:あまり身につかなかった 1:身につかなかった）

学習目標・つきたい力	目標	成果	成果についてそう感じた場面・理由
自文化の理解	A	4	できるだけ身近なことを相手に発信するようにしたので、生徒も伝えやすかったようだ。
異文化の理解	B	4	マラウイについては初めて知ることばかり。JICA 隊員の方からたくさんのことを教えてもらって理解が進んだ。
コミュニケーション力 (説明・共感・英語)	A	4	テレビ会議を通して英語で話をする楽しさを感じている生徒が多かった。
情報活用能力 (情報収集・発信)	A	3	相手国調べでは、図書館で本を借りたり、インターネットで調べたりしていた。
人間関係をつくる (学級内・交流相手)	B	4	テレビ会議や壁画制作など一人一人の分担を決めて一緒に活動する場面でクラス内の人間関係が強まった。
協働する力 (役割分担・協力)	B	5	特に絵の制作の場面で、人にアドバイスを求めたり、助け合ったり、お互いに協力する姿がよく見られた。
学習を追究する意欲	B	3	相手からの返事が遅いときには意欲が落ちそうになったことがあったが、英語学習で相手に伝える意識を維持した。
表現力 (伝えたいことを絵で表す)	A	5	一人一人が相手に伝えたい想いを十分に絵に表現することができて大変満足そうだった。
作品を鑑賞する力	B	5	マラウイの生徒が絵の具も筆も使うのが初めてなのに画面いっぱいにマラウイのことを描いて日本に伝えたい気持ちが伝わった。